

善養寺便り

第十号

平成二十八年六月号 発行 善養寺

六月のことば

他人の過失を見るなかれ。
他人のしたこととしなかったことを見るな。
ただ自分のしたこととしなかったことだけを
見よ。
（「ブツダ真理のことば」より）

◆『二十八年度永代経法要』

四月二十一日、二十二日、今年度の永代経法要を勤めました。両日とも多くご聴聞にお越しくださいました。皆さんようこそお参り下さいました。今年のご講師は、大阪市の野村康治師でした。当坊は初めてのご講師でしたが、また一つ良きご縁ができました。法話少し紹介します。師は大阪のお寺の住職でいらつしやいますので、お話も大阪から始まりまし



◆すみれの会

より

五月十二日本年度第1回すみれの会が開催されました。第1回目は昨年度も好評だった「いちご大福」作りです。



龍本会長さん坪田副会長さんのお世話で調達された材料を分担し、みんなでわいわい楽しくおしゃべりしながら作っていきますと、美味しいいちご大福が沢山出来上がりました。

今年は白玉粉とあんこが余り、バナナを包んでみたところ、とてもあっさりとして美味しいバナナ大福になるという手作りならではの嬉しい発見がありました。その際には甘くなり過ぎ無いように、皮に入れるお砂糖を少し控えるという裏ワザが！

第二回は六月二十九日十三時〜坪田久子先生の

「友禅染めのコースター作り」です。

すみれの会は仏协会会员さんならどなたでも無料で参加できます。ぜひぜひすみれの会に会員登録して楽しいひと時をご一緒に過ごしましょう♪指導して下さる方も大募集♪

※材料準備がありますので、お早めにお申し込み込みください。

た。

大阪は、太閤秀吉が大きくなったのではなく、もともと四天王寺と石山本願寺の寺内町から発展した町であり、今の大阪城の場所に本願寺があった。梅田はいまこそ大都会であるが、もともとは湿地帯で、「埋めた」が「梅田」になった。日本で最初に病院ができたのも大阪。寺院も病院も同じ「院」を用いるのは、世界中どこも、病院は、宗教施設に作られたことと関係する。病院は、確かに病気を直すところであるが、先に逝く者も残される者も互いに命を聞き合っていく場所であった。世界中の病院には、宗教者が常駐しているが、日本の病院にはいない。「死んだら終わり」と世間で言うが、決して死んだら終わりではない。お仏壇に手を合わせ、仏さまに色々話しかけたり、お供えをする。だから、仏さまとなった愛しい人とのつながりはずっと続くのです。

以上は、ご法話のほんの一部ですが、師のユーモアを交えた分かり易いお話に皆引き込まれ、熱心に聴聞ができました。

永代経法要は、報恩講法要と同様、婦人会の方の調理による「お斎」を出しています。

永代経のお斎は本当においしく、また亡き人を偲びつつ味わう機縁となります。

永代経は、当該年に「年回法要」があたつていらつしやる方を偲び、慕う法要です。今年お参りできなかった方は、是非来年はお参りください。



◆『二十八年善養寺仏教婦人会総会 並びに第一回仏教講演会』

並びに第一回仏教講演会

五月二十七日（金）さわやかな初夏の陽気の中で、今年度仏教婦人会の総会と第一回講演会を行いました。四月の永代経法要に続き、今回も本堂満堂の多数のご出席をいただきました。婦人会の皆様、役員の皆様ありがとうございました。

総会終了後は、恒例のゲスト演奏で、今年度は國見政之輔様の尺八と西川かをり様の琴の演奏を披露していただきました。ご夫婦でもあるお二人は、プロの奏者として国内外でご活躍です。最初に尺八の「献奏」があり、次に琴の弾き語り（「琴の弾き語り」は初めて聴きました）

住職）、最後は尺八と琴による組曲を演奏されました。もちろん尺八と琴の演奏は聴いたことはありましたが、今回は特別でした。緊張感と深みのある音色と調べに酔いしれ、

これまでのイメージとは全く違う、非常に新鮮な響きとして私たちの耳に入ってきたのです。プロの演奏の素晴らしさは格別で、皆うっとり聴き入りました。琴は、弦を支える白い台を動かしながら弾くのですね。初めて知りま



した。

この演奏の様子を、ホームページに載せますので、ネットが出来る方は是非ご覧下さい。



昼食（お弁当）



龍本澄子仏婦会長あいさつ



総会のようす

◆第一回仏教講演会



お褒めいただきました。

師のお話の冒頭で、「この世に命を恵まれて一万何日目の・・・」という言葉がありました。誰しも自分が何歳かはいつも考えますが、生まれて今日で何日目とは普段あまり考えないと思われると、一日一日が益々貴重に思えてくる気がします。千里の道も一歩一歩の積み重ね。お念仏とともに日々を一生懸命生きてゆきましょう。

総会後は、ゲスト演奏、昼食に続き、午後は第一回仏教講演会でした。今回も、当坊初登場の先生で、京都市伏見区から藤澤慈恩（めぐみ）師にお越しいただきました。久々の女性の講師先生で、とても親しみやすい口調で、楽しくお話を聴かせていただきました。終了後、「仏教婦人会の組織がとてもしっかりされていますね。」と大変感心していらっしゃいました。さらに「今日は、皆さんによく反応していただき、また熱心にご聴聞いただきとてもよい法座でした。」と

次回、第二回講演会は

七月十二日（火）午後一時半から
谷川弘顕先生です。

◆おてらぐい「桂雀々」落語会について

日時 九月二十四日（土） 善養寺本堂にて
雀々さん 開演十四時 終演十五時頃

「高座」を作らなければなりません。今の案はビールケ―スを積み上げて作ろうかと考えてますが、よい案があれば教えて下さい。

一時間弱の高座になる予定です。演目も未定です。門信徒の方のみのご案内です。また、未就学の子どもさんは申し訳ないですが、入場できません。

お彼岸の時期ですので、落語の前に皆さんといっしょにお勤めをします。

後日、観覧有無の予備調査をしますので、よろしく願います。

姫路、西二階町の「七福寄席」の高座



（再掲載）

八号でお知らせしました、本願寺伝灯奉告法要の団体参拝参加者を夏頃から正式に募集します。

本願寺第二十五代専如門主伝灯奉告法要

二〇一七年左記の日程で、「本願寺第二十五代専如門主伝灯奉告法要」に参拝します。是非一緒に参りしましょう。

善養寺としましては

平成二十九年（二〇一七年）三月十一日は「三十名」、

同 四月十四日は「二十名」を募集しますので、参拝をご希望される方はお寺までお申し出ください。

日程（予定）

集合 姫路駅南 午前九時発

昼食 本願寺近郊のホテルにてランチバイキング

法要 午後二時～四時

その後、本願寺周辺散策

姫路駅帰着 午後七時頃

・参加費 一万円（バス代、昼食、ご懇志含む）

・大型バスに分乗し、

西本願寺日帰り参拝

